

## LabVIEW での動作について

### 1.1.概要

ZS-6224、6225、6228 では、ナショナルインスツルメンツ社製 LabVIEW での制御が可能です。  
FTDI 社製の VI を使用しますので、以下のファイルを使用してください。

FT\_Open\_Device\_By\_Serial\_Number.vi

FT\_Close\_Device.vi

FT\_Set\_Bit\_Mode.vi

FT\_Set\_Baud\_Rate.vi

FT\_Write\_Byte\_Data.vi

FT\_Get\_Bit\_Mode.vi

### 1.2.VI 解説

リレーの制御、フォトカプラの入力などをするためには以下の VI を使用します。

FT\_Open\_Device\_By\_Serial\_Number.vi : USB ポートをオープンします。(複数台使用可能)

FT\_Close\_Device.vi : USB ポートをクローズします。

FT\_Set\_Bit\_Mode.vi : ZS-622x には 8 ビットのポートがあり、その入出力の設定を行います。

FT\_Set\_Baud\_Rate.vi : 8 ビットの書き換え時間の設定をします。

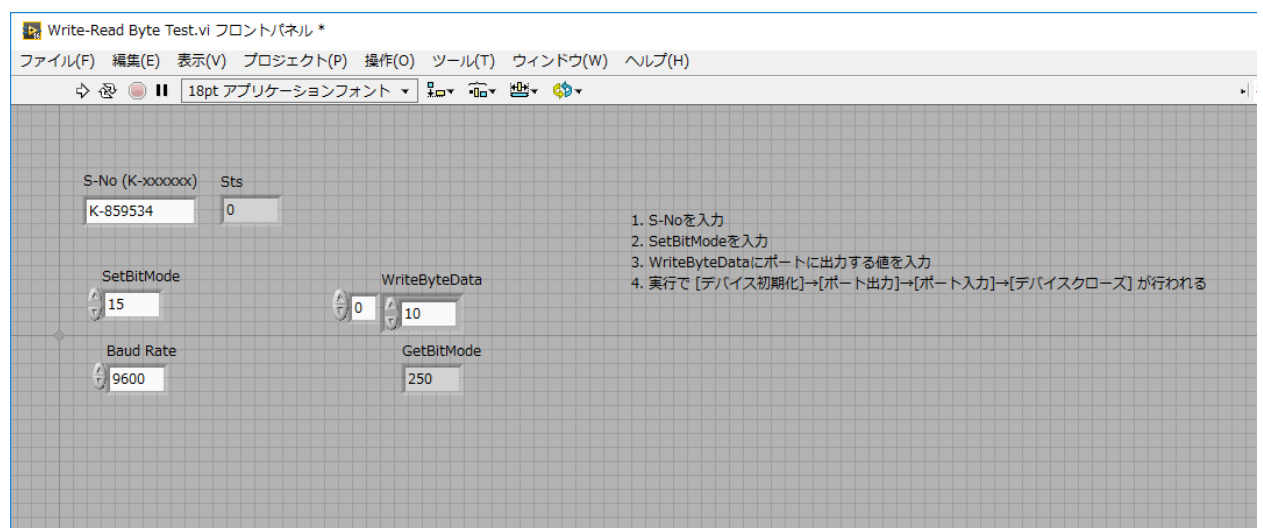
FT\_Write\_Byte\_Data.vi : 出力の ON/OFF をします。

FT\_Get\_Bit\_Mode.vi : 入力を読み込みをします。

それぞれのパラメータなどは FTDI 社製の API とほぼ同等ですので取扱説明書を参照してください。

使用法は、サンプル「Write-Read Byte Test.vi」を参照してください。

以下がサンプル「Write-Read Byte Test.vi」の画面となります。



以上